

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化や終末期に向けた支援をしたいという理想と実際にはどうしたらよいかという現実のギャップの存在が問題点であり、そのギャップをどう埋めていくのが課題である。	ギャップを埋めるために「ターミナルケアまでを私たちは介護の範囲とする」という確固たる方針を策定し、全職員に意識をもたせる。	現在、具体的な対象者を介護している。対象者の介護記録とは別に当施設独自の「〇〇さん介護日誌」を職員全員で作成し、今後の指針、また、より適切なターミナルケアのあり方を模索していく。	無期限
2	35	災害対策 夜間の火災時の安全な避難方法の具体的な対策ができていないことは問題であり、その問題をクリアすることが課題である。	出火元とならないように万全を期する。万が一出火元となった場合及び類焼火災の対策を整える。	出火元とならないように万全を期することが第一であり、万が一出火元となった場合の初期消火とスムーズな通報を職員全員が迷うことなくうまくできるようになることが重要であるので、訓練を絶やさず行う。また、消防署、自治消防団、近所の協力体制づくりは必至であるので、より一層の努力をしていく。さらに類焼火災の可能性を具体的に検証し、類焼シミュレーション図を作り、パターンに即した安全避難方向と方法を青写真に落とし込む。	12ヶ月
3	20	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者それぞれが穏やかで心豊かな生活が続けられるよう支援していきたい。そのために馴染みの人や場の関係継続は利用者にとって重要なポイントでもある。しかし、少数かつケースバイケースであるが馴染みの人や場の関係継続が必ずしもそうではないこともあるのも事実である。その矛盾の調整は理想の介護の実現に若干の問題として存在している。	馴染みの人や場の関係継続に関する諸々のメリットとデメリットをうまく調整しながら穏やかで豊かな生活が続けられるように支援することを目標とする。	①利用者一人ひとりの歴史を理解するために絵や話し言葉を使って「自己紹介」という形式の表を作り、利用者を理解する自己研修を全職員で行う。 ②利用者一人に対し職員2名の担当者制を敷き、それぞれの少し深いところを理解するよう努力を試みる。 ③幼少時代・青春時代・新婚時代・子育て時代などを話題にして、よい思い出の馴染みの人や場所をさぐる。 ④リサーチしたそれぞれが好む馴染みの人や場所をドライブの目的にして実施してみる。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。